

### ③明治から大正、昭和初期の足袋工場



明治23年頃までは家内工業であった。明治19年日野屋の酒蔵を橋本喜助が改築して、180坪の工場を作ったのが行田での足袋工場の最初であった。主な先駆者として、明治20年頃までには30軒を数えるに至った。新商品としての”足袋”に転換する業者が次第に増えている。  
古い手工業時代から、新しい家内工業への幕上げです

明治23年頃までは家内工業であった。明治19年日野屋の酒蔵を橋本喜助が改築して、180坪の工場を作ったのが行田での足袋工場の最初であった。るに至った。新商品としての”足袋”に《古い手工業時代から、新しい家内工業  
そして、明治23年頃になると足袋の  
がら工場生産様式をとると生産高も増  
明治25年頃にドイツの「八方ミシン」  
急激に発展しました。



明治20年頃までには30軒を数え  
転換する業者が次第に増えている。  
への幕上げ》

裁縫に機械が導入され、小さいな  
えるようになりました。そして、  
が導入されると行田の足袋産業が



「イサミスクール工場」の大正6年(1917)の木造洋風住宅、大正7年(旧事務所)、昭和13年足袋蔵(モルタル蔵)は「鈴木勝次郎商店」明治40年開設の大規模足袋工場。昭和初期には「イサミ足袋工場」が建設されている。